
心に決めたこと

brades

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

心に決めたこと

【Nコード】

N4909V

【作者名】

brades

【あらすじ】

今年の夏は異常だ。
気候も、俺の運もな。
やれやれだ……。

(前書き)

今回は涼宮ハルヒの驚愕のちょっとした伏線をSSにしてみました

・・・

とりあえず最後まで以外は原作未読でも楽しめる予定だと思いますw

それではどうぞ

季節は夏。

夏とは言っても、ここの所変な異常気象のせいで別段気温が高いわけでもないのに暑いという理不尽気候満喫中だ。

・・・やれやれ、こう不安定な天気が続くと母なる大地が心配になってくるね。・・・まあ、心配するだけで別段行動を起こそうんざ微塵も思わんがな。・・・あれ、デジャブか？まあいい。

我らがハルヒ団長率いるSOS団も、今でこそ皆思い思いの休息を取ってはいるが、あと2週間もすれば地獄のような毎日が待っているだろう。

と言つのは、去年の夏も夏休み最終日まで怒涛のイベント嵐だったからである。

まあ、あの時は1万云千回もの繰り返しを経験したりしたわけだが、それも昔話さ。

最も、あいつのことだからまたやりかねんというのは確かなんだがな。・・・ええい面倒臭い。

俺自身去年と変わりなく現在も宿題手付かず。起きて食っちゃ寝、テレビを見つつ食っちゃ寝、ゲームを少しやりや飽きて食っちゃ寝と怠惰な高校生夏休みライフを送っている真っ盛りだ。

・・・自分で言っていて泣けてくるがな。
そこ、ニートとか言うなこら。夏休みくらいだらけて何が悪い、全く・・・。

そうこうしてる内に時間は周り、そろそろ昼飯を考えるかとスーパーに行った・・・それが悪かったんだな、きつと。うん、そうに違いない。

「あら、キヨンじゃない。」

よりもよって一番暑い時間帯にこの会い方である。・・・まさか俺は何かこいつに呪いでもかけられてるんじゃないかなかるうか？朝比奈さんや長門ならまだしも、涼宮ハルヒその人である。

「よう、お前か。珍しいな、この辺でお前が買い物するなんて。」

「普段はこの辺まで来る理由なんてないんだけど、今日はちょっと他に買い物があったのよ。その帰りにお昼ご飯でも買っていこうかなって思っただけよ。」

・・・偶然だと信じたい。

知ってる奴で、時間指定なのに目的が同じだというまさかのこのシチュエーション。もしかしたらこの中の男性諸君には『おお！超ラッキー！』とか思うバカもいるかもしれんが、俺はそうは思わんね。できるだけ早く退散したいものだな。

「あんたもこれからお昼？ならちょっと付き合いなさい！」

ほら来た。

・・・わーい、やったねー（棒読み）

そんなこんなで現在俺の部屋。

何故か知らんが二人分の昼飯を買わされ、勝手に俺の家に上がり込んでくるという始末である。

こいつにはそろそろここ日本の常識を教えてやらねばならんかね？
しかもそれだけじゃない。俺の家のアイスまで頼張ってんだぜ？そ
の報酬が団長様の100Wの笑顔！・・・どこの感動映画だよ、っ
たく。

「そっぴえばキヨソ。あんだ進路はもう決めたの？」

「進路だあ？まだ俺達高2だぞ？全然決めてねえよ。」

・・・これは半分嘘ではあるが。

「あんだね、甘いわよ。できるだけ早いうちに進路つてのは決めて
おくの。それが進学になるうが就職になるうが、早く決めておけば
それに向けて少しずつ準備できるでしょ？夏休みの宿題と同じよ、
あんだはまだ手つけてないと思うけど。」

これはこれは良い推理じゃないか、ハルヒさん。勿論やってないぜ、
威張れたことじゃねえが。

まあでも今回はこいつに一理あるな。おそらく大学進学になるだろ
うから、進学先のデータを少しでも集めるのは良いかもしれん。

「そっぴうお前はどっだ、具体的に何か目指してるものはあるのか
？」

「ん？大学進学以外特に何も？」

ねえのかよ！！

「まあ、あたしはあたし。あんだはあんだ。そんなに深く追求する
もんでもないでしょ？」

・・・その言葉に何か刺さった。
ハルヒの言う事に間違いはない。無いのだが・・・。

「いや、だが俺達はSOS団だろ？そういうことは皆で乗り越えるべきだとは思わないか？」

我ながら変な理屈だな。

でもな、ハルヒ。俺だって具体的目標が無けりゃ行動できないんだよ、わかってくれ。

「ま、それもそうね。ふふっ、バカキョンも暑さでやられたのかしら、良いこと言うじゃない！」

「そうかい。・・・ま、せめてお前と同じ大学に行けるくらいの頭は欲しいもんだな。」

「・・・え？」

・・・しまった。

モノローグのつもりが声に出ちまった・・・。
い、いや、これには別に深い意味は・・・

「・・・ま、まあ、あんたはバカだからね！あたしに追いつけるくらいの頭が果たしてあるのかしらね？」

「言ったなこの野郎、その台詞覚えとけよ？」

「上等じゃない！2年後にあんたが絶望する姿が見物だわ！」

あーあ、火つけちゃまったよ俺。
でもなんでだろうね、安心してる自分がいる。

今考えてみればきっと俺は伝えたかったんだろう。

「俺はお前と歩みたい」ってな。

そしてそれは・・・重要なことだったんだよな。

あの春見たアレを俺が実現させたかったのだから。

～Fin～

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4909v/>

心に決めたこと

2011年10月7日15時27分発行